

# インターネットを利用した子どもの性に関連した親の悩み

山口 真理<sup>1)</sup>, 齋藤 尚子<sup>2)</sup>, 岡本 美代子<sup>3)</sup>, 松田 結<sup>4)</sup>, 西田 みゆき<sup>5)</sup>, 野崎 真奈美<sup>3)</sup>

了徳寺大学・健康科学部・看護学科<sup>1)</sup>

帝京大学・医療技術学部・看護学科<sup>2)</sup>

順天堂大学・医療看護学部・看護学科<sup>3)</sup>

University of Miami・School of Nursing & Health studies<sup>4)</sup>

順天堂大学・保健看護学部・看護学科<sup>5)</sup>

## 要旨

本研究は、インターネット知識検索コミュニティサイト「Yahoo!知恵袋」への投稿文から、親が子どもの性に関して持っている悩みの現状を把握し、家庭での解決方法に向けた示唆を得ることを目的とした。2013年1月から2017年12月の期間に投稿された投稿文を対象とし、「性教育」をキーワードにして検索した。その中から、子どもを持つ親が抱える「子どもの性についての悩み」に関して記載されている投稿文を抽出し、質的帰納的に分析した。分析の結果、【性に興味をもった子どもへの対応】、【親の性教育観にまつわる困難】、【家庭での性教育の進め方】の3つのカテゴリーが抽出された。家庭での性教育に向け、父親と母親両方への参画支援や一人親世帯を含めた各家庭の考え方や役割も踏まえた子どもの性に関する知識の提供が求められる。また、市町村で実施されている一般的な子育て支援の枠組みの中で、就学前の親子の関係性を築く関わりの一つとして家庭における子どもの性に対する向き合い方を伝えていくことも重要である。さらに、親が性教育の具体的な内容に関して質問しやすい専門職との接点や親同士が語れる場や機会があることが望まれている。

キーワード：性教育，家庭，インターネット，子ども

## Communicating with their children about sex: Concerns expressed online by Japanese Parents

Mari Yamaguchi<sup>1)</sup>, Naoko Saitou<sup>2)</sup>, Miyoko Okamoto<sup>3)</sup>, Yui Matsuda<sup>4)</sup>,

Miyuki Nishida<sup>5)</sup>, Manami Nozaki<sup>3)</sup>

## Abstract

The purpose of this study was to understand the concerns that parents posted onto an internet bulletin board about their children's sex-related challenges/issues. This work provided insight into parents' perspectives and may ultimately lead to the creation of programs to support families with children. Internet bulletin board posts related to parents' communications about sex with their children were extracted between January 2013 and December 2017. Then the posts were analyzed by categorizing them using a qualitative inductive method. As a result of the analysis, the following three categories were extracted: "How to appropriately respond to children who are interested in sexuality," "Difficulties related to parents' views concerning talking to their children about sex," and "How to carry out sex education at home." Our findings suggest that to facilitate home-based sex education, it is necessary

to provide parents with knowledge about children's sexuality. It is crucial to consider the views and roles of each family member, supporting the participation of both fathers and mothers, and include single-parent households. In addition, as a part of the framework of general child-rearing support provided by municipalities, we believe that it is important to inform parents about how to face and deal with children's sexuality at home as a way to build relationships between parents and young pre-school children. Moreover, it is desirable for parents to have a point of contact with professionals so that they can easily ask questions about the specifics of sex education at home and to have places and opportunities where they can talk with other parents.

Keywords : Sex education, home, internet, child

## I. はじめに

我が国の10代女性の妊娠において、子どもの出生数より人工妊娠中絶件数の方が多い<sup>1)</sup>。しかし、人工妊娠中絶実施率は、平成12年の12.1（15～19歳の女子人口千対）がピークを示し、平成28年には5.0まで下降した<sup>1)</sup>。10代の人工妊娠中絶実施率が低くなってきた背景には、さまざまな取り組みがある。

厚生労働省は、健やか親子21（第二次）の基盤課題Bの中でも学童期・思春期から成人期に向けた保健対策として10代の「性」についての課題をあげている。取り組みの結果、10代の人工妊娠中絶率（人口千対）、性感染症罹患率は共に中間評価で減少した<sup>2)</sup>。しかし、今なお性器クラミジア感染症は男女共に20代で最も多く<sup>3)</sup>、不妊症の原因になることから対策の必要性が指摘されている<sup>4)</sup>。

また、文部科学省では、学校における性に関する指導を学習指導要領に定め、指導を展開している。具体的には、児童生徒が妊娠や出産などに関する知識を確実に身に付け、適切な行動を取ることができるよう、保健体育科を中心に学校教育活動全体を通して行われている<sup>5)</sup>。しかし、学校のカリキュラムは、子どもの性の発達における個人差が大きいと、すべての子どもにとって必ずしも適切な学習時期には行えない<sup>6)</sup>。そのため、今日の学校での性教育の対策だけでは限界があるといえる。

性教育は学校等で一律に実施するだけでなく、家庭においても子どもの個々の性の発達状況を把握した上で話していくことが望ましいと考える。性感染症やその他の性にまつわる危険性を回避するためにも、子どもにとって最も身近な存在である親の役割は大きい。親が子どもの性行動や性の不安、悩みといった内容を解決することは難しいが、子どもの悩みに無関心にならず親も子どもと共に考える姿勢が大切である<sup>7)</sup>。しかし、親は親自身が性教育は恥ずかしいという気持ちから、その実施に歯止めをかけている現状もある<sup>8)</sup>。

そこで、親が子どもに性について話す機会を持てるようにするために、まず親は性教育についてどのような課題や困難といった悩みを抱えているのかを明らかにする必要がある。2017年インターネット利用率（個人）は80.9%、13歳～59歳までの各階層での利用は9割を超えている<sup>9)</sup>。性についてはオープンに話せない現状があるが、インターネット上では性に関する親からの相談も多いのではないかと推測される。本研究ではインターネット知識検索コミュニティサイトの投稿を通して、親が子どもの性に関して持っている悩みの現状を把握し、家庭での性教育や解決方法を探るための示唆を得ることを目的とした。

## II. 研究方法

### 1. 用語の定義

本研究では、「性教育」を「性に関して、おとなから子どもへ伝えること」と定義する。なお、学校の

授業だけでなく、家庭内で親が子どもに対して、性に関する会話をすることも含む。

## 2. 研究方法

インターネット知識検索コミュニティサイト「Yahoo!知恵袋」(以下、コミュニティサイト)へ投稿された投稿文を収集した。2013年1月から2017年12月の期間に投稿されたものを対象とし、「性教育」をキーワードにして検索した(検索日:2018年7月)。その結果抽出された検索総数3,737件から内容を確認し、子どもの性についての悩みに関して記載されている投稿文126件を抽出した。そのうち、二重投稿や中傷と読み取れる記載内容など信頼性がない3件を除外し、最終的に123件を分析対象とした。

## 3. 分析方法

本研究は、質的データである投稿文をもとに、忠実にその文脈から概念を導き出す帰納的分析を用いた。まず、検索した投稿文を投稿年順に一覧表にし、全体を精読した。次に、子どもの性に関連したキーワードに着目して細分化し、コード化した。各コードを帰納的に相違点・共通点から分類し、サブカテゴリーとした。さらに意味や内容が類似しているものをまとめてカテゴリー化した。質的帰納的研究として記述内容の分析を行った岡崎<sup>10)</sup>の研究を参考に、投稿内容をカテゴリー化した。分析の段階において、信憑性の確保のため小児看護や地域看護など思春期を対象にした看護の専門家である研究者複数名で分析をおこなった。また、質的研究に精通した共同研究者を中心に質的帰納的に分析を進め、信憑性の確保に努めた。

抽出の段階で、子どもへの性や性教育に関連のない投稿文は除外した。また、障害や疾患により個別に配慮が必要な子どもの内容についての投稿文は、個人が特定されやすいため除外した。

## 4. 倫理的配慮

了徳寺大学生命倫理審査委員会の承認を得た(承認番号20-24)。投稿文は、公表されているものであり、「Yahoo!JAPAN」のプライバシーポリシーに従っている。また、記載内容に忠実であり、投稿者が特定されないように投稿文を細分化、抽象化し、個人が特定できない配慮をした。

# Ⅲ. 結果

## 1. 投稿の概要

投稿件数は123件であり、投稿者の内訳は母親64名(52.0%)、父親12名(9.8%)、不明47名(38.2%)であった。相談対象の子どもは138名であり、性別は男児67名(48.6%)、女児65名(47.1%)、不明6名(4.3%)であった。年齢は幼児期から高校生までと幅広く、10歳未満46名(33.3%)、10~14歳68名(49.3%)、15歳以上11名(8.0%)、不明13名(9.4%)であった(表1)。投稿に際し、年齢や性別を記載することは必須ではないことから、年齢や性別が不明である投稿文が1割程度みられた。また、子どもが複数人おり、それぞれ年齢が明記されていた投稿文については、子どもの人数に応じた投稿件数として計上した。

投稿文を細分化し、全体を俯瞰しながら分析を進めた結果、3カテゴリー、13サブカテゴリーに集約された。サブカテゴリーを形成するコードについては、複数の投稿文から抽出されたものについて、その件数を( )に示した(表2)。インターネットは顔が見えず個人が特定されないという利点から、安心して子どもの性教育に関連する悩みや相談を投稿できる。投稿内容は親自身や子どもの性にまつわる実際の悩み、親の教育観など多岐にわたっていた。カテゴリーは【 】、サブカテゴリーは< >、コードは< >で示す。

## 2. コミュニティサイトに投稿された、親の子どもの性に関する悩みの現状

### 1)【性に興味をもった子どもへの対応】

親は成長の過程でみられる自慰や性器いじりといった行為に対し、<子どもの性的な行為のやめさせ方

表1. 投稿の概要

		名	(%)
投稿者 n=123	母親	64	(52.0)
	父親	12	(9.8)
	不明	47	(38.2)
相談対象の子ども n=138	性別	男児	67 (48.6)
		女児	65 (47.1)
		不明	6 (4.3)
	年齢	10歳未満	46 (33.3)
		10-14歳	68 (49.3)
		15歳以上	11 (8.0)
	不明	13 (9.4)	

と、親は困難感として捉えていた。また、予期せぬ状況が発端となった「子どもにセックス等を見られた時の対応」という具体的な親の性に関係したできごとをきっかけとした内容もあった。「子どもの恋愛・交際」では、子どもの恋愛に関する行動に対して「性交渉は認めない」など、親としての考えや教育方針といったものもあった。以上、3サブカテゴリーと各コードが抽出された。

これらは、家庭における子どもの自分自身の性への関心や行動、それに伴う子どもへの親の対応に関する投稿であった。子どもの年齢や発達段階は様々だが、性に関連した家庭の現状や対応に関する内容が多くを占めていた。

## 2)【親の性教育観にまつわる困難】

親は、「性器の正式名称」がわからない、「男児の第二性徴について」具体的に知らないといったことで、子どもへの性教育に踏み込めない「親の知識不足からくる性教育への戸惑い・不明瞭感」を投稿していた。そもそも「性教育は必要か」という、子どもに話をすべきか否かなどの「子どもへの性教育の是非」に関する投稿も複数あった。「異性の子どもへの性教育への困難」、「夫婦間での性教育観の相違」といった男性と女性の性差に関する問題、「誰にも相談できない」ため「適切な情報入手の困難」に悩みや困惑もあった。「学校での性教育への疑問」では、学校でおこなわれる性教育に関しての投稿文もあった。以上、6サブカテゴリーと各コードが抽出された。

家庭内において、性教育を行うきっかけはさまざまであった。親は子どもの性にどのように向きあっていくべきか、という親の悩みや考えが多く投稿されていた。また、家庭や学校という子どもの性の教育環境についての疑問や現状についての内容の投稿もあった。

## 3)【家庭での性教育の進め方】

具体的な性教育を進めるにあたり「子どもに性教育をする時期」、「子どもへの性教育の仕方」、「子どもへの性教育の内容」、「教材の選択の迷い」の4サブカテゴリーと各コードが抽出された。

親は、子どもに話をすべきか否かなど性教育について迷っている段階ではなく、家庭での性教育は必要と考えており、具体的にどうすべきかを模索していた。「子どもに性教育をする時期」では、子どもの年齢を鑑みた話をする適切な時期について、また、実際の生活の中での話のタイミングについての模索があった。「子どもへの性教育の内容」では、親自身に子どもへの話す内容についての考えは既にあり、内容の是非の確認をしたいためインターネットを介して他人に問かけるといった内容であった。そして、実際に子どもに直接話をするだけでなく、「教材の選択の迷い」として有効な媒体を求めている。

表2. 「性教育」で検索された投稿内容

カテゴリー	サブカテゴリー	コード( )内はコード数	
性に興味をもった子どもへの対応	子どもの性的な行為のやめさせ方	自慰行為や性器いじり(4) 性器への興味や奇異的な行動(4)	漫画雑誌の購入をやめさせたい(2) 母親の下着への興味
	子どもにセックス等を見られた時の対応	子どもにどう説明するべきか(2) どのように対処していけばいいのか	これを機にきちんと説明した 避妊の話をした
	子どもの恋愛・交際	性交渉は認めない(2) どこまで口出しするべきか 子どもの性意識の低さ	セックスへのアドバイス 妊娠についての話をしている
親の性教育親にまつわる困難	親の性教育の知識不足からのゆらぎ・不明瞭感	性器の正式名称について(2)	男児の第二性徴について
	子どもへの性教育の是非	ほかの家庭を参考にしたい(4) そもそも性教育は必要か(3) 性教育はしなくてもよいか(2) 性器に関する行動がみられたため 中絶の本当の姿、真実を性教育として教えるべき	自分が性教育をするべきか 学校では性教育はあるのか きちんと正しいことを教えることが大切 生理は隠すべきではない
	異性の子どもへの性教育への困難	自慰行為の処理について 子どもと性が同じ方の親に任せたい	異性の親からの性教育は妥当なのか(2) 男児への性行為の話
	夫婦間での性教育親の相違	自慰行為に対する考えの違い(2) 具体的な内容についての考えの相違(2)	妊娠するのは女が悪いのか(2) 夫のことがよくわからない
	適切な情報入手の困難	どう娘に向き合っていけばいいか 中学生の性交渉への不安 性教育について	だれにも相談できない 性器の興味への対応に困惑している
	学校での性教育への疑問	露骨すぎる内容(3) 学校での性教育には限界(2) 内容が乏しい(2) 小学校では何歳くらいから性教育が始まるか 結婚するまでセックスをしてはいけないとの教育	家庭で教えるべきか 子供たちの実情よりも遅れている 踏み込んだ内容ではない
家庭での性教育の進め方	子どもに性教育をする時期	性的な関心に触れたので性教育を始めるべきか ほかの家庭では何歳から性教育をしたのか そろそろ性教育として話をするべきか悩中(2)	何歳から始めるべきか(2) 話のタイミングがわからない(5) 早すぎないか
	子どもへの性教育の仕方	どのように話をしているのか知りたい(7) 一番良い教え方を知りたい(5) 子どもの質問の答えに困っている(4) 考えがまとまらない、迷い(3) 子どもに声をかけられない(2) 子どもの質問にどう答えたらよいか(2) 性行為についてオープンに話すべきなのか(2)	息子に性教育の話がしたい 誰(親)がするべきか シングルマザーはどう性教育したらよいか セックスについてどう説明したらよいか 出産についてどう説明したらよいか ズバツと言っていいのでしょうか
	子どもへの性教育の内容	どこまで教えるべきか(9) 赤ちゃんはどうやって来たか聞かれる(3) このような答え方でよいか(2) 悪影響はないか(2) 素敵なエピソードを知りたい(2) 子どもの性知識への対応方法(2) この方法や内容でよいか 性教育どの程度すべきか ペニスの説明の仕方の夫婦間の相違 高校生への男女交際のありかた 中学生の自慰行為 自分の性教育は間違っているのか 質問にどこまで答えるべきか	はっきり言うのが子どもに良いのか わかりやすい性教育の方法を知りたい 性感染症予防 人工妊娠中絶の予防 コンドームの正しい使用方法 セックスって何と聞かれたらどう答えればよいか どうやって妊娠するのか聞かれている よその家の性教育内容を知りたい オーラルセックスのことまで話すべきか 何歳くらいから、どういった性教育をするべきか 異性の子どもへの性教育内容 自分が親から教わっていない
	教材の選択の迷い	参考書籍を探している(5) 親子で勉強できるような良書が欲しい	エッチな漫画を与えるべきか

#### IV. 考察

##### 1. 親の性別による家庭での役割と知識の提供のあり方

投稿者は、母親が52%であるのに対し、父親は9.8%であった。これは、父親は性教育を必要と考えながら実施には至っていない<sup>11)</sup>、父親のほうが性について一歩引いている<sup>8)</sup>という先行研究と一致している。

そのため、投稿者においても父親より母親のほうがより積極的に性教育を実施している、または実施を検討している可能性が考えられる。母親が子どもの性教育に、より中心的に関わっているがゆえに、異性である男児の第二性徴に関する性教育への自信のなさなどがあり<sup>8) 11)</sup>、投稿する要因として考えられる。本研究の結果からも〈男児の第二性徴について〉具体的に知らない、〈男児への性行為の話〉についてなど、母親は異性の子どもに対する性教育を困難と捉えており〈異性の子どもへの性教育への困難〉や〈夫婦間での性教育観の相違〉といった異性として性教育を行なう難しさが表れていた。

一方、性に関する内容や子どもの性別に対し、親には異性の子どもへの性教育観の相違があり、父親と母親での性教育の役割分担も考えている投稿もあった。男児は身体の変化に関する質問相手として父親を選ぶため、この場合は父親の性教育参画が期待される<sup>11) 12)</sup>。また、女児は、母親からの教育を望み、母親も月経の手当て等の教育は母親がするべきと考えている<sup>14)</sup>。しかしながら、〈シングルマザーはどう性教育したらよいか〉という家庭環境ゆえの問題も想定される。家庭における性教育に向けて、父親の参画への支援や一人親世帯を含む各家庭の考え方や役割も踏まえた子どもの性に関する知識の提供が求められる。

## 2. 会話を通した性教育との向き合い方

親は、子どもに性教育を行う上で、〈教材の選択の迷い〉があり、参考となる書籍に関する情報を得ようとしていた。その他にも、親は自ら得た知識や情報をもとに、家庭生活において、子どもと会話を通して性に関する知識を伝えるべきであると考えていた。つまり、親は不足している知識を自分の力で獲得しようと努力していることが推察された。

また、会話を通して〈子どもに声をかけられない〉のように、第二性徴を迎える時期の子どもに対して性に関する話を突然しても、子どもが自然に取り込むには無理が生じる。実際、〈子どもに性教育をする時期〉について、投稿者からの相談が10件以上あり適齢期を選ぶことに迷いがある。光石らは、幼児期から出生時の様子などを子どもに伝える機会を作り、性を生活の中で自然に受け入れるような家庭環境を作ることが大切であると述べている<sup>7)</sup>。子どもは成長発達に伴い、身近な親に対して性に関する質問も多くなる。その質問に対し、親はきちんと向き合い答えることで、子どもは性に関する知識を得ることとなると考える。そのためには、市町村で実施されている一般的な子育て支援の枠組みの中で、就学前の親子の関係性を築く関わりの一つとして家庭における子どもの性に対する向き合い方を伝えていくことも重要であるとする。

## 3. 具体的な性教育の内容について

家庭での性教育について〈どこまで教えるべきか〉といった、具体的な性教育の場面や状況を示す内容が散見された。これは、親が子どもに性教育をすることを前提とし、実施に向けて具体的にどのように伝えるべきか、投稿を通して情報を得ようとしていた。性教育は学校でも行われているにも関わらず、親は家庭内でも積極的に性教育を実施しようとしていた。

しかし、親は性に対する恥ずかしさから、子どもへの説明の仕方や対応方法がわからず<sup>8)</sup>、親世代には身近で個人が特定されないインターネットを介して、問いに対する回答を求めているのではないだろうか。本研究でも、具体的な性教育の内容を問う投稿があり、専門家や教諭等には相談しにくいこと<sup>12)</sup>、もしくはそれが憚られる雰囲気があることから、コミュニティサイトを利用したのではないかと考える。

実際、投稿者は自分が受けてきた具体的な性教育の内容と比較していた。親の世代は、いわゆる月経教育や第二性徴以外に家庭や学校で系統的な性教育を受けてきていない<sup>10) 11)</sup>。親自身の経験や現代の情報

社会のなかで育つ子どもに必要な性に関する具体的な内容以外にも伝え方に困難を抱えている<sup>13)</sup>。さらに、性教育をするべきか、しないべきかなど《子どもへの性教育の是非》などの家庭での方針、《子どもにセックス等を見られた時の対応》といった、家庭内のプライバシーに関わること等、他の家庭ではどう対応しているのか情報や経験を求め、投稿したと考える。

このことから、親が性教育の具体的な内容に関して質問しやすい専門職との接点や親同士が語れる場や機会があることが望まれていると考えられた。

#### 4. 本研究の限界と今後の課題

対面ではなく身近に利用できるインターネットは、性教育への率直な悩みや相談ができることが利点である。半面、虚偽や悪戯などの投稿の可能性も否定できず、正しい知識が得られるとは限らない。コミュニティサイトへの投稿は自由であるがゆえに漠然とした内容のものも多かったが、相談者本人に意図する内容を確認することはできない。以上より、研究を目的としない自由意志の投稿文から分析をすることの限界は否めない。

また、「性教育」をキーワードに検索したが、様々な意見や個別性の高い相談もあった。本研究では、その中から障害や病気により個別に配慮が必要な子どもの内容や、個別性に特化した内容についてはカテゴリーに分類できず除外した。しかし、個別性の高い子どもをもつ親は、一般的な性教育では解決しないために、インターネットで個別に悩みを相談しているのかもしれない。共生社会の形成に向けては、個別性の高い子どもの性教育のあり方にも着目し、今後の研究課題としていくべきであると考えられる。

## V. 結 論

コミュニティサイトに、子どもの性に関してどのような悩みや相談をしているのか、投稿文を分析した。コミュニティサイトに投稿された、親の子どもの性に関しての悩みや相談の現状は【性に興味をもった子どもへの対応】【親の性教育観にまつわる困難】【家庭での性教育の進め方】であった。

家庭での性教育に向け、父親の参画支援や一人親世帯を含めた各家庭の考え方や役割も踏まえた子どもの性に関する知識の提供が求められる。また、市町村で実施されている一般的な子育て支援の枠組みの中で、就学前の親子の関係性を築く関わりの一つとして家庭における子どもの性に対する向き合い方を伝えていくことも重要である。さらに、親が性教育の具体的な内容に関して質問しやすい専門職との接点や親同士が語れる場や機会があることが望まれている。

本研究内容の一部は、第60回日本母性衛生学会(2019年10月千葉県)にて発表した。

利益相反に関する開示事項はない。

## 文 献

- 1) 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会会育研究所編(2018)日本子ども資料年鑑2018, 東京:KTC中央出版.
- 2)「健やか親子21(第二次)」の中間評価に関する検討会. “「健やか親子21(第二次)」の中間評価に関する検討会報告書”, 厚生労働省ホームページ, <https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000614300.pdf> (2020.03.16アクセス).
- 3) 国立感染症研究所. “若年者で増加してきている性器クラミジア感染症”, 国立感染症研究所ホームページ, <https://www.niid.go.jp/niid/ja/chlamydia-std-m/chlamydia-std-idwrs/8395-chlamydia-181030.html> (2020.03.16アクセス).

- 4) 平野由紀, 柴原浩章, 島田和彦, 他 (2007) STDと不妊－クラミジア・トラコモテイス感染症を中心に－. 産婦人科治療, 95(2), 187-195.
- 5) 内閣府. 平成30年版子供・若者白書.
- 6) 村井文江, 江守陽子 (2014) 小学校3年生の保護者がとらえる“性教育”と“家庭における性教育の取り組み”に関する質的分析：思春期の子どもを持つ家庭における性教育の支援の検討に向けて. 思春期学, 32(1), 176-187.
- 7) 光石敬子, 貝原明子, 南里美貴 (2018) 家庭における性教育に関する研究の動向と展望. 母性衛生, 59(2), 519-525.
- 8) 小倉由紀子, 北川真理子 (2010) 家庭での性教育における親の果たすべき役割. 日本助産学会誌, 24(2), 333-244.
- 9) 総務省ホームページ. “インターネットの利用状況”  
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd252120.html> (2020.01.06 アクセス).
- 10) 岡崎愉加 (2014) 思春期の性に関する子育て支援－親が性教育を実施していない理由－. 日本看護学会論文集母性看護, 66-68.
- 11) 稲川由美 (2012) 家庭での性教育の実態調査－小学生を持つ親へのアンケート調査より. 日本看護学会論文集母性看護, 42, 66-69.
- 12) 三浦陽子, 嶋田紀膺子 (2010) 小学6年生の長子に対する母親の性教育に伴う思い－「母親の語り」の分析をとおして－. 母性衛生, 51(1), 119-126.
- 13) 亀石知美, 下見千恵 (2017) 第1子に小学生がいる保護者の家庭で性教育を行う際の支援に関する検証－父母間での性教育に関する意識の違いについて. Japanese Red Cross Hiroshima Coll.Nurse, 17, 1-7.
- 14) 福山智子 (2019) 母親が中高生の娘に行う月経教育への介入のあり方について, 家庭内月経教育の文献レビューを通しての考察, 母性衛生, 60(1), 44-14.

2022年2月2日 受理  
了徳寺大学研究紀要 第16号